

地方独立行政法人茨城県西部医療機構

令和 3 年度の業務実績に関する評価結果（案）

全体評価・大項目評価

令和 4 年 8 月

筑西市

※本文中の網掛け部分は、第 2 回評価委員会のご意見を踏まえ、変更した箇所である。

I 全体評価

地方独立行政法人茨城県西部医療機構の令和3年度の業務実績については、おおむね中期目標及び中期計画の達成に向けた年度計画どおりに進んだものであった。大項目ごとの評価としてBが5つであり、また、小項目評価全体の平均は3.1であり、全体として、おおむね計画どおりに進んだと判断した。

第1期中期目標期間（H30.10.1～R4.3.31）の最後の事業年度である令和3年度は、地域において求められる役割である「救急と新型コロナウイルス感染症の対応」に奮闘した。コロナ専用病棟の稼働による医療体制の整備に伴い一般病棟への受入制限も生じた一方で、地域における2次救急医療の完結に向け、高い救急車搬送患者応需率の維持に努めた。

在宅医療については、茨城県西部メディカルセンターは在宅療養後方支援病院として、前年度以上に地域の医療機関からの患者を受入れ、筑西診療所は訪問診療及び訪問看護体制を強化するとともに、在宅医療連携グループを拡充したことで地域に貢献した。

医療スタッフの確保については、柔軟な雇用形態の採用、研修医の受入れや大学との連携により、目標の医師数を達成した。一方で、看護師については、十分に人材を確保することができておらず、目標とする人員数までの差異も大きい。全病床を稼働させるためには、医療スタッフの確保が不可欠であり、医業収益の増加と経営基盤の安定化にもつながってくるため、今後も重点的に取り組むべき課題である。

高次医療機関や地域の診療所との連携に努め、高い紹介率及び逆紹介率を維持したことで、中期目標として掲げた地域医療支援病院の承認を受けることができた。今後も、地域の医療機関との役割分担及び連携強化を一層推進していくことを期待する。

また、医療安全対策について、インシデント報告件数が目標値を大きく上回り、事例分析や情報共有によりアクシデント件数の減少につながったことは評価できる。一方で、地域や関係者に開かれた医療機関として多職種意見交換会を実施することができなかつたため、今後はWEB連携も検討して、医療情報の共有に努めることが課題である。

経営状況については、新型コロナウイルス感染症の専用病棟の設置に伴い、一般病棟の受入に制限が生じ、目標の患者数の確保ができなかつたため、医業収支比率の達成はできず、安定した経営基盤の構築には至っていない。

一方で、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として対応したことにより、診療報酬上の臨時的措置による診療単価の向上や入院病床確保に伴う補助金等の国の支援を受けることができ、経常収支の黒字化を達成し、目標とする経常収支比率を大きく上回ったことは評価できる。

災害への備えについては、地域災害拠点病院として、DMAT 隊員の技能研修や真壁医師会等と連携した防災訓練を実施し、災害への対応を強化したことは評価できる。

引き続き、地域の医療機関との連携を強化して、地域において求められる役割を果たし、住民に対する医療サービスを一層充実させるために、安定した経営基盤の構築に努めることを期待する。

II 大項目評価

〔第1表 大項目の評価方法〕

大項目評価は、小項目評価の結果及び特記事項の記載内容を考慮し、大項目ごとに中期目標及び中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、次の5段階による評価を行う。

(地方独立行政法人茨城県西部医療機構年度評価実施要領第3条第2項第3号)

評点	評 語	小項目評価平均点	摘 要
S	特筆すべき進捗状況にある	4.5以上	各段階の評価は、大項目ごとの小項目評価評点の平均点(小数点以下第2位四捨五入)で区分する。
A	計画を上回って進んでいる	3.5以上4.5未満	
B	計画どおり進んでいる	2.5以上3.5未満	
C	やや遅れている	1.5以上2.5未満	
D	重大な改善事項がある	1.5未満	

1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果

B

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、3.1であり、B評価（計画どおり進んでいる）が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価	5	4	3	2	1
	項目数	大幅に上回って 実施	上回って実施	順調に実施	十分に実施でき ていない	大幅に下回る
1 医療サービスの向上	5		3	2		
2 医療提供体制の整備	3			1	2	
3 患者・住民サービスの 向上	3		1	2		
4 地域医療連携の強化	3			3		
5 信頼性の確保	3		1	1	1	
合計	17	0	5	9	3	0

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

1 医療サービスの向上		
小項目	評価	意見等
(1) 患者中心の安全で心のこもった良質な医療の提供	4	感染制御医師と感染管理認定看護師による感染管理体制のもと、地域における新型コロナウイルス感染症対応の中心的な役割を果たしていることは評価できる。
(2) 急性期を中心に地域特性を反映する医療の提供	4	地域の医療機関と連携して24時間365日救急医療を提供しており、地域における2次救急医療の完結に向け、高い救急車搬送患者応需率を維持したことは高く評価できる。 また、他院の医療従事者の参加も募って救急勉強会を開催し、医療職の知識、技能の向上に努めている。
(3) がん、脳疾患、心疾患、糖尿病への対応	3	がん患者の治療について、前年度以上に積極的に対応した。 大学等高度医療機関や地域開業医と、紹介、逆紹介を通して密に連携し、切れ目のない継続的な治療を行った。
(4) 小児医療への取組	3	研修医の受入れや、自治医科大学からの医師の招へいにより、小児科医師の確保に努めた。 小児救急患者の受入体制の充実のため、ゴールデンウィーク及び年末年始には、小児科に特化した救急診療を行った。
(5) 地域医療機関と連携した在宅医療の充実	4	茨城県西部メディカルセンターは、前年度以上に地域の診療所から患者を受入れ、在宅療養後方支援病院として地域の在宅医療に貢献した。 筑西診療所については、人員増により訪問診療及び訪問看護体制が強化されるとともに、在宅医療連携グループを拡充して在宅医療提供体制の充実化を図ったことは、高く評価することができる。
2 医療提供体制の整備		
小項目	評価	意見等
(1) 優秀な医療スタッフの確保	2	柔軟な雇用形態の採用、研修医の受入れや大学との連携により、医師の確保につながった。 しかし、看護師については、退職者も多く人材の確保が不十分である。介護福祉士や薬剤師についても、目標の人員に達していない。
(2) 医療スタッフの専門性・医療技術の向上	2	専門性の向上に向けた研修については、医療スタッフが積極的に受講しているものの、専門分野での資格取得については、目標が未達であり今後の課題となった。

	(3)	多職種連携に基づくチーム医療の実践	3	新型コロナウイルス感染症対策の中、各職種が必要な情報共有を行い、チーム医療の推進に取り組んだ。
3 患者・住民サービスの向上				
		小項目	評価	意見等
	(1)	患者及び患者家族の満足度向上への取組	3	全職員を対象としたWEB研修を開催し、接遇向上に取り組んだ。患者アンケートでは、前年度よりも外来、入院ともに満足度の向上がみられた。
	(2)	利便性及び快適性の向上	3	診察や検査等の待ち時間短縮に向けて、午前中に集中している外来枠を、随時午後へシフトするなどの取組を行った。
	(3)	健康増進や疾病の予防医学の活動	4	人間ドックや健康診断について、1日あたりの受入人数を前年度より増加させることができ、WEB予約システムを構築することができたことは評価できる。また、ホームページにおいて新型コロナウイルス感染症関連の情報提供を行った。
4 地域医療連携の強化				
		小項目	評価	意見等
	(1)	地域医療機関、かかりつけ医との連携 (2人主治医制)	3	地域医療機関等と連携強化を図り、紹介率及び逆紹介率は前年度を上回った。また、地域医療支援病院の承認を受けることができた。
	(2)	地域医療連携のコントロールタワーとしての役割	3	筑西広域管内の救急車搬送のうち、約4割を茨城県西部メディカルセンターが応需している。また、高次医療機関や地域の医療機関と連携を図り、紹介件数については前年度を上回った。
	(3)	地域医療の情報共有・分析への取組	3	筑西市が設置する地域医療推進センターと協働して、法人の診療分析を実施したことで受療動向がみえてきた。今後の医療サービスに反映することを期待する。
5 信頼性の確保				
		小項目	評価	意見等
	(1)	医療安全対策等の徹底	4	新型コロナウイルス感染症対策の予防策の徹底に努めた。また、医療安全確保のためのインシデント報告件数が目標を大きく上回り、アクシデント件数の減少につながったことは評価できる。

(2)	法令、行動規範、病院理念等の遵守	3	倫理規定を順守し、コンプライアンスの徹底に努めた。
(3)	地域や関係者に開かれた医療施設としての取組	2	多職種意見交換会を実施することができなかったため、WEB連携による開催を検討されたい。今後の地域医療連携の推進と医療情報の共有に期待する。

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果

B

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、3.0であり、B評価（計画どおり進んでいる）が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価	5	4	3	2	1
	項目数	大幅に上回って実施	上回って実施	順調に実施	十分に実施できていない	大幅に下回る
1 地方独立行政法人としての業務運営及び管理体制の構築	3			3		
2 勤務する職員に魅力ある病院づくり	3			3		
合計	6	0	0	6	0	0

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

1 地方独立行政法人としての業務運営及び管理体制の構築		
小項目	評価	意見等
(1) 効率的な運営及び管理体制の確立	3	医事課や地域医療連携部の再編を通して、運営の効率化を図った。 また、病院長主催の全体集会を毎週 WEB にて開催し、法人の課題意識の共有を図り、組織の管理体制の確立に努めた。
(2) 事務職員の職務能力の向上	3	経営支援に関する研修会に参加し、職務能力の向上に努めた。 筑西市から派遣されていた職員と密に連携することで、職務能力の向上に努めた。
(3) 計画的な研修制度の整備	3	WEB により、医療安全研修や感染対策研修を実施した。 今後も役職に応じた研修等を開催し、職員の知識、技能の向上に期待する。
2 勤務する職員に魅力ある病院づくり		
小項目	評価	意見等
(1) 意欲を引き出す人事給与制度の整備	3	人事制度検討委員会を開催し、人事給与制度について再検討を行った。 併せて、評価者研修や評価力育成会議を行った。
(2) 職員満足度の向上	3	会議や委員会の構成員を見直すことで、所属の垣根を超えてコミュニケーションを行える職場づくりに努めた。
(3) 働きやすい職場環境の整備	3	働き方改革推進委員会において、医療従事者の負担軽減、休暇取得の促進や時間外勤務の削減について協議した。 また、毎週 1 日ノ一残業デーを指定して、就労環境の整備に努めた。

3 財務内容の改善に関する事項

(1) 評価結果

B

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、3.0であり、B評価（計画どおり進んでいる）が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価	5	4	3	2	1
	項目数	大幅に上回って 実施	上回って実施	順調に実施	十分に実施でき ていない	大幅に下回る
1 経営基盤の構築	1			1		
2 収益の確保と費用の節 減	2			2		
合計	3	0	0	3	0	0

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

1 経営基盤の構築		
小項目	評価	意見等
(1) 経営基盤の構築	3	<p>新型コロナウイルス感染症への対応や、新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての役割を果たしたことで、診療報酬上の臨時的措置による診療単価の向上や、入院病床確保に伴う補助金等の国の支援を受けることができ、収益の確保につながった。これにより、経常収支が黒字となり、経常収支比率は目標を大きく上回ったことは評価できる。</p> <p>一方で、コロナ専用病棟における個室管理や看護配置等の医療体制を整備したことに伴い、一般病棟の受入れに制限が生じたこともあり、医業収支比率については目標に達しなかった。</p> <p>医業収支比率を改善することで、経営基盤の安定化を図ることが課題である。</p>
2 勤務する職員に魅力ある病院づくり		
小項目	評価	意見等
(1) 収益の確保	3	<p>新型コロナウイルス感染症に対応したことで、診療報酬上の臨時的措置を受けることができ、収益の確保につながった。</p> <p>DPC 制度に対応し、早期退院と新規入院患者の受入れによる病床回転率の向上を目指したが、コロナ専用病棟の稼働に伴う医療体制の整備により、一般病棟の受入れを制限したこともあり、難しい状況であった。</p>
(2) 費用の節減	3	<p>クリニカルパスを活用し、エビデンスに基づいた最適な医療資源の投入量としたことで、費用の削減に努めた。</p> <p>診療材料等の物流や情報については SPD 運用管理をベースとし、材料の廉価製品への移行や使用上位品目の価格交渉を行うことで費用の削減を図った。</p>

4 その他業務運営に関する事項

(1) 評価結果

B

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、3.0であり、B評価（計画どおりに進んでいる）が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価	5 大幅に上回って 実施	4 上回って実施	3 順調に実施	2 十分に実施でき ていない	1 大幅に下回る
	項目数					
1 地域災害拠点病院とし ての災害への備え	1			1		
2 組織統合における相互 協力、融和の推進	1			1		
合計	2	0	0	2	0	0

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

1 地域災害拠点病院としての災害への備え			
小項目		評価	意見等
(1)	地域災害拠点病院としての災害への備え	3	業務継続計画の継続的な見直しを行うとともに、DMAT隊員の技能研修、真壁医師会等との防災訓練の実施など、年度計画どおりに実施することができた。
2 組織統合における相互協力、融和の推進			
小項目		評価	意見等
(1)	組織統合における相互協力、融和の推進	3	病院長や幹部職員が、全職員に向けた動画を毎週配信し、法人の課題や方針についての共有を図った。今後も所属を越えた協力体制の構築を期待する。

5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画【参考】

(1) 評価結果

B

(2) 判断理由

小項目評価の結果、平均点は、**3.0**であり、**B評価（計画どおりに進んでいる）**が妥当と判断した。

(3) 小項目評価の集計結果

分野	評価	5 大幅に上回って 実施	4 上回って実施	3 順調に実施	2 十分に実施でき ていない	1 大幅に下回る
	項目数					
予算、収支計画及び資金 計画	1			1		
合計	1	0	0	1	0	0

(4) 大項目評価に当たり考慮した事項、意見等

予算、収支計画及び資金計画			
小項目		評価	意見等
(1)	予算、収支計画及び資金計画	3	<p>新型コロナウイルス感染症に対応したことで、診療報酬上の臨時的措置による診療単価の向上と、入院病床確保に伴う補助金等の国の支援を受けることができ、経常収支が黒字化し、経常収支比率については計画値を大幅に上回った。</p> <p>一方で、コロナ専用病棟における個室管理や看護配置等の医療体制を整備したことに伴い、一般病棟の受入れに制限が生じたこともあり、医業収支比率については目標に達しなかった。</p> <p>医業収支比率を改善することで、経営基盤の安定化を図ることが課題である。</p>

Ⅲ その他 全体的な意見

地域の中核病院として、「救急と新型コロナウイルス感染症の対応」という2つの大きな役割を果たすため献身的に取り組んだことで、国の支援を受けることが可能となり、経常収支の黒字化を達成したことは評価できる。

しかし、開設以来の課題である医療スタッフの確保による全病床稼働は達成できず、医業収支比率は低い水準が続き、目標達成には至らなかった。新型コロナウイルス感染症の影響は考慮するが、安定した経営基盤の構築に向けて、引き続き一層の努力を期待する。